

NU Festival'03

学部祭 Portrait



発行所 日本大学新聞社
東京都千代田区九段南4-8-24
〒102-8275 電話03-5275-8144
郵便振替口座 東京6-119766
(大正10年10月15日創刊)
(毎月20日発行・12頁180円)

<http://www.nihon-u.ac.jp/nup/>

nupm@adm.nihon-u.ac.jp

写真で「東京」の社会学

3年連続の桜麗祭大賞「東京人」観察学会の「写真で語る・東京」の社会学のセミナー、という記念の展示会を迎え、3日間で2000人だ事を社に選ばれた文理学部社会学科の後藤範章教授(都大会学)が訪れた。毎年、ゼミ生や後藤教授の講義を受講している学生が「東京」の社会学の分

析し、説明文とともに展示する。夏のゼミ合宿で、約360点の中から各個の意見や写真の事実関係をもちに30点にまで絞り込んだ。後藤ゼミのホームページに来年2月頃、今年度の30作品がアップされる。Hd=http://www.chs.nihon-u.ac.jp/soc_dpt/ngotoh/tokyo/



対向するまなざしー浜離宮と汐留との「借景」関係ー
(C)「東京人」観察学会(文理学部社会学科・後藤ゼミ)

3年連続の桜麗祭大賞

浜離宮恩賜庭園(以下浜離宮)から汐留シオサイトを仰ぐ風景である。

徳川将軍家の庭園であった浜離宮は400年近い歴史を持つ名庭園で、東京湾の海水を引き入れた汐留の池が特徴的である。以前は庭園目当てに訪れる人のみを迎え入れる、その意味で周りの都市空間から孤立した「小宇宙」であった。しかし、汐留の再開発によって、浜離宮とビル群とは双方共に「見る一見られる」関係に入る。シオサイトからすると、浜離宮を「借景」として組み込むことで、「都心景観」の完成度を高めた。浜離宮からすると、従来の浜離宮からシオサイトに「借景」を替えることで、東京湾に面した縁辺部に立地する隔れた庭園から、巨大都市空間の内部に立地する「都心の庭園」に変質させた。

緑豊かな庭園と隣接する巨大ビル群。それぞれに身を置く者たちは、お互いの存在を監視することがないまでも、否が応でも視線を投げかけ合う。まなざしを別次元から対向させるこの空間と景観は、いかにも「現代東京的」と言っても良い。

2003年7月27日(日) 13時頃
浜離宮恩賜庭園(中央区浜離宮庭園1丁目)にて撮影

2003年(平成15年)11月20日(木曜日)